

平成31年度用

小学校算数科用

新編「新しい算数」 3年  
移行期 指導計画作成資料

東京書籍

2018.7

# 平成31年度用 新編新しい算数3年 年間指導計画 細案

## ◆ 教科書の使い方を知ろう（上巻の目次～p.5）

時	活動内容
0.5 1	<p>○ 「もくじ」や「新しい算数」を使って学習しよう！のページを使って、教科書の使い方を知らせ、子どもたちが自ら教科書を有効に活用して、算数科の学び方や主体的な学習習慣が身に付けられるようにする。</p> <p>① 「もくじ」のページ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「前の学習」や「後の学習」が示されていることにふれ、算数の学習はこれまでの学習をもとに積み重ねられていること、以後の学習へつながっていることに気づかせる。</li> <li>・登場するキャラクターの役割を知らせる。</li> </ul> <p>② 「新しい算数」を使って学習しよう！のページ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の中で使われている記号の意味などを知らせ、学び方をおさえる。</li> <li>・「ほじゅうのもんだい」や「ふりかえりコーナー」については、学習習慣を身に付けるために有効なページであるため、特に児童にいていねいに説明する。</li> <li>・単元内に設けられたまとめの各ページ（「力をつけるもんだい」「やってみよう」「しあげ」など）の意味を知らせる。</li> <li>・特設ページ（「おぼえているかな？」「考える力をのぼそう」「かたちであそぼう」）についても簡単に紹介する。 * 「おぼえているかな？」でタイトルや問題番号に家の形を用いているのは「家庭で既習を確認するページ」という編集意図であることにふれるとよい。</li> <li>・式や図などを用いて、自分の考えを説明したりノートに記述したりすることが算数科で求められている表現力であることをふまえ、つねにこのような学習姿勢で取り組むことを指導する。また、関連して本文の「算数マイノートをつくらう」のページを簡単に紹介するのもよい。</li> </ul> <p>※ 「指導者・保護者の方々へ」の取り扱いについて</p> <p>これらの記述はいずれも教科書の編集意図に加え、子どもたちに学習習慣（特に家庭での自学自習）を身に付けるためには家庭での理解・協力が必須であると考え、今改訂教科書から掲載したものである。保護者の方々との連携を図りながら、教科書を有効に活用していただきたい。</p>

## 1. 九九を見なおそう [かけ算] 上p.6～21

〔指導時期〕 4月中旬～下旬      〔指導時数〕 10時間

- 【単元の目標】**
- 乗法に関して成り立つ性質やきまりなどの理解を深め、乗法を適切に用いる能力をいっそう伸ばす。
  - 〔関〕 乗法に関して成り立つ性質やきまりに関心を持ち、それらを基に数の範囲を拡張して計算の仕方を考えようとする。
  - 〔考〕 乗法に関して成り立つ性質やきまりを基に、九九の範囲を超える乗法の計算の仕方を、図や式を用いて考え、表現することができる。
  - 〔技〕 被乗数や乗数が0や10の乗法計算をすることができる。
  - 〔知〕 乗法に関して成り立つ性質やきまりについて理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) かけ算のきまり 上p.4～17 6時間			
1	<p>〔プロローグ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ p.7の九九表の空いているところをうめる活動や、p.6の図で各段の答えの一の位の数字を結んで規則正しい形をつくる活動を通して、九九の確認をすると同時に、かけ算への興味・関心を高める。</li> <li>・ 所要時間は10分程度。</li> </ul>		
	○ 乗数が1ずつ増減するときの乗数と積の変化の関係や	・ 乗数と積の関係や交換法則を使って $7 \times 4$ の答えの見つけ方を考える。	関かけ算の性質やきまりを図や式を用いて考え、説明している。

	乗法の交換法則の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各々の考えを発表し、他者の考えと比較する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗法について成り立つ性質（乗数と被乗数の関係）やきまり（交換法則）を理解している。</li> </ul>
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>前時で出された考えを整理し、乗数と積の関係や交換法則をまとめる。</li> <li>適用問題に取り組む。</li> </ul>	
3	○被乗数や乗数を分解しても積は変わらないという乗法の性質を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>被乗数や乗数を2つの数に分けて、<math>8 \times 6</math>の答えの求め方を考える。</li> <li>被乗数や乗数を分解しても積は変わらないことをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アレイ図のドットの分け方に注目して、被乗数や乗数を分解した乗法の計算の仕方を考え、説明している。</li> <li>乗法の分配法則を理解している。</li> </ul>
4	○被乗数や乗数が10のときの答えを、乗法に関して成り立つ性質やきまりを用いて求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>10の段の答えを、累加の考えや既習のかけ算のきまりを用いて求め、九九表に記入する。</li> <li>乗数が10のときの答えを、既習のかけ算のきまりを使って考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗数と積の関係や分配法則、交換法則を用いて、被乗数が乗数が10のときの計算の仕方を考え、説明している。</li> <li>被乗数や乗数が10の乗法計算ができる。</li> </ul>
5	○ $a \times \square = b$ , $\square \times a = b$ の□にあてはまる数を、九九を用いて求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>被乗数、または乗数が未知数の式で、九九を適用して未知数を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>九九を用いて<math>a \times \square = b</math>, <math>\square \times a = b</math>の□にあてはまる数を求めることができる。</li> </ul>
6	○被乗数が10を超える場合でも、乗法に関して成り立つきまりや性質を用いて答えを求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li><math>12 \times 4</math>の答えのいろいろな求め方を考え、図や式を使って表す。</li> <li>他者の考えを読み取り、図や式に表す。</li> <li>分配法則を用いたり、10といくつに分けたりすると、10より大きい数の乗法の答えを求められることをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被乗数が12の場合でも、10のときと同じように乗法に関して成り立つ性質やきまりを基に答えを求めようとしている。</li> <li>乗法について成り立つ性質やきまりを基に、<math>12 \times 4</math>の乗法の答えの求め方を図や式を用いて考え、説明している。</li> </ul>
<b>(2) 0のかけ算 上p.18~19 2時間</b>			
7	○被乗数や乗数が0の場合の乗法計算をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面をとらえ、被乗数や乗数が0の場合の乗法の式を考える。</li> <li>被乗数や乗数が0の場合もかけ算の式に表せること、答えは0になることを確認し、まとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被乗数や乗数が0の場合も、既習の乗法と同じ考え方で立式しようとしている。</li> <li>乗法に関して成り立つ性質などを用いて、被乗数や乗数が0の場合の乗法の答えが0になることを説明している。</li> <li>0を含む乗法の計算ができる。</li> </ul>
8		<ul style="list-style-type: none"> <li>表を基に、得点のとり方を式に表す。</li> <li>式を基に、得点のとり方を考える。</li> <li>適用問題に取り組む。</li> </ul>	
<b>まとめ 上p.20~21 2時間</b>			
9	○算数的活動を通して学習内容の理解を深め、かけ算についての理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やってみよう」交互に九九のカードをひき合い、ひいたカードが表す大きさの分だけまずに色を塗る活動に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。</li> </ul>
10	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「しあげ」に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な学習内容を身につけている。</li> </ul>

## 2. 時こくと時間のもとめし方を考えよう [時こくと時間のもとめ方] 上p.22~27

【指導時期】 4月下旬 【指導時数】 4時間

- 【単元の目標】**
- 秒について知り、時刻や時間の求め方を理解し、日常生活で用いることができるようにする。
  - 関 ・ 時刻や時間に関心を持ち、生活で用いようとする。
  - 考 ・ 時間を長さと同じように量としてとらえ、図などを用いて時刻や時間の求め方を考え、表現すること

ができる。

【技】・時刻や時間を求めることができる。

【知】・秒について知り、他の時間の単位との関係を理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) 時こくと時間のもとのめ方 上p. 22~25 2時間			
1	○ある時刻から一定時間後の時刻や、2つの時刻の間の時間を求めることができる。	・8時40分から30分後の時刻や、9時50分から10時10分までの時間を、文字盤や数直線を手がかりにして求める。 *デジタルコンテンツがあります。	図時計盤や数直線を用いて、ある時刻から一定時間後の時刻の求め方を考え、説明している。 図2つの時刻の間の時間を求めることができる。
2	○ある時刻から一定時間前の時刻や、時間と時間の和を求めることができる。	・11時10分の30分前の時刻を、文字盤や数直線を手がかりにして求める。 ・40分と30分を合わせた時間を、数直線を手がかりにして求める。	図時計盤や数直線を用いて、ある時刻から一定時間前の時刻の求め方を考え、説明している。 図時間の和を求めることができる。
(2) 短い時間 上p. 26 1時間			
3	○時間を表す単位「秒」について知り、分と秒の単位関係を理解する。	・1分より短い時間の表し方について考える。 ・時間の単位「秒」や、1分=60秒の関係を知る。 ・秒の針の動きに合わせて手を打ったり、目をつぶって1分たつたと思ったら手をあげたりする、量感を養う活動に取り組む。	図1分=60秒の関係を理解し、1秒や1分などの量感を身につけている。
まとめ 上p. 27 1時間			
4	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	図基本的な学習内容を身につけている。

### 3. 長さをはかろう [長いものの長さのはかり方] 上p. 28~36

【指導時期】 5月上旬~5月中旬 【指導時数】 6時間

- 【単元の目標】
- 長さについて、およその見当をつけたり、目的に応じて単位や計器を適切に選んで測定したりできるようにし、長さについての理解を深める。
  - 【関】・長さの単位キロメートルが用いられていることに興味をもち、身の回りの長さについて調べようとする。
  - 【考】・長さについて、目的に応じた適切な単位や計器の選び方や、効率的な測定の仕方を考え、工夫することができる。
  - 【技】・長さについて、およその見当をつけたり、適切な単位や計器を選んで測定したりすることができる。
  - 【知】・長さの単位キロメートルを知り、単位の関係について理解し、長さについての豊かな感覚をもつ。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) 長いものの長さのはかり方 上p. 28~31 2時間			
1	【プロローグ】 ・p. 28の写真を提示し、これまで学習してきた長さの単位や測定について振りかえるとともに、長いものの長さへの興味・関心を高めるようにする。 ・所要時間は10分程度		
	○長いものや、まるいものの長さを測定するには、巻尺が便利であることや、その	・運動マットの長さをはかるにはどうすればよいか考える。 ・長いものの長さをはかるには、巻尺を使う	図巻尺の便利さに気づき、いろいろなものの長さを巻尺を用いて測定しようとしている。

	使い方を理解し、測定することができる。	と便利なことを知り、巻尺の目盛りの読み方を知る。	図測定対象や目的に応じた適切な計器について考え、説明している。
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の縦と横の長さを巻尺を使ってはかる。</li> <li>・長さの見当をつけてからいろいろなものの長さを巻尺ではかる。</li> <li>・10mを予測して、その長さを実際にはかる活動を通して量感を養う。</li> <li>・測定対象に応じた計器を選択する。</li> </ul>	図巻尺を用いているいろいろなものの長さを測定することができる。
<b>(2) 長い長さのたんい 上p. 32~34 1時間</b>			
3	○道のりや距離の意味を知り、長さを表す単位「キロメートル (km)」について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「きょり」と「道のり」の意味を知り、絵地図を見て距離や道のりを調べる。</li> <li>・長い道のりや距離を表す単位「キロメートル (km)」を知る。</li> <li>・「算数のおはなし」を読んで、昔の長さの単位「里」について知り、長さへの興味・関心を高める。</li> </ul>	図上位単位としてのキロメートルや1km=1000mの単位関係を理解している。
<b>まとめ 上p. 35~36 3時間</b>			
4・5	○算数的活動を通して学習内容の理解を深め、長さについての量感を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「やってみよう」※以下の活動から選択して取り組む。</li> <li>・1kmを歩いてかかった時間や歩数を調べ、その長さを体感する。</li> <li>・図鑑で調べたいろいろなものの長さを実測して体感する。</li> <li>・身の回りのものに表示されているいろいろな長さの単位を調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。</li> <li>図1kmがどのくらいの長さであるかなど、長さの大きさについて豊かな感覚をもっている。</li> </ul>
6	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	図基本的な学習内容を身につけている。

**\* おぼえているかな? 上p. 37 時数配当なし**

—	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな?」に取り組む。	図既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--------------------	------------------------

**4. 新しい計算を考えよう [わり算] 上p. 38~50**

〔指導時期〕 5月中旬~下旬      〔指導時数〕 10時間

- 【単元の目標】**
- 除法の意味について理解し、それを用いることができるようにする。
  - 関 ・ 除法の意味や計算の仕方について、乗法との関連や具体物の操作などからとらえようとしている。
  - 考 ・ 等分除と包含除を除法として統合してとらえ、具体物や図、式を用いて計算の仕方を表現することができる。
  - 技 ・ 除法の計算が確実にできる。
  - 図 ・ 除法が用いられる場合や除法と乗法などとの関係について知り、除法の意味について理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
<b>(1) 1人ぶんの数をもとめる計算 上p. 38~41 3時間</b>			
1	〔プロローグ〕		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ p. 38の絵を提示し、焼きそばとジュースの分け方の違いを話題として取り上げ、自由な話し合いなどをしながら、わり算への興味・関心を高めるようにする。</li> <li>・ 所要時間は10分程度</li> </ul>		
	○除法に関する用語、記号を知り、等分除の意味について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ数ずつ分ける場面であることをとらえる。</li> <li>・ 12個のクッキーを3人で等分すると1人分は何個になるかを、半具体物を操作して調べる。</li> <li>・ 上記の操作結果を<math>12 \div 3 = 4</math>と式に表すことを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 等分除の意味を具体物の操作などからとらえようとしている。</li> <li>○ 等分除の場面を除法の式に表すことができる。</li> <li>○ 等分して1人分の数を求める場合は除法の式に表すことを理解している。</li> </ul>
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適用問題に取り組む。</li> <li>・ 用語「わり算」を知る。</li> </ul>	
3	○等分除の答えの見つけ方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>20 \div 5</math>の答えを半具体物を使わずに見つける方法を考える。</li> <li>・ <math>\square \times 5 = 20</math>の式から除数の段の九九を使うと答えが見つけれられることをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 等分除の答えの見つけ方について、九九を使えばよいことを具体物や図などを用いて考え、説明している。</li> <li>○ 等分除の答えを九九を使って見つけることができる。</li> </ul>
<b>(2) 何人に分けられるかをもとめる計算 上p. 43~47 4時間</b>			
4	○包含除の場面も除法の式に表されることや、包含除の意味について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ p. 43の絵から、等分除との違いを確認する。</li> <li>・ 12個のパイを1人に3個ずつ分けると何人に分けられるかを半具体物を操作して調べる。</li> <li>・ 上記の操作結果を<math>12 \div 3 = 4</math>と除法の式に表すことを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 包含除の意味を具体物の操作などからとらえようとしている。</li> <li>○ 包含除の場面を除法の式に表すことができる。</li> </ul>
5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用語「わられる数」「わる数」の意味を知る。</li> <li>・ 適用問題に取り組む。</li> </ul>	
6	○包含除の答えの見つけ方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>20 \div 5</math>の答えを半具体物を使わずに見つける方法を考える。</li> <li>・ <math>5 \times \square = 20</math>の式から除数の段の九九を使うと答えが見つけれられることをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 包含除の答えの見つけ方について、九九を使えばよいことを具体物や図などを用いて考え、説明している。</li> <li>○ 包含除の答えを九九を使って見つけることができる。</li> </ul>
7	○等分除と包含除は、「わり算」として統合できることを理解し、除法計算の答えを求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>6 \div 2</math>の式になる問題をつくる。</li> <li>・ 等分除と包含除の問題を比べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 操作や答えの見つけ方などから、等分除と包含除をどちらも除法として関連づけてとらえ、わり算には2通りの場面があることを説明している。</li> </ul>
<b>(3) 0や1のわり算 上p. 48 1時間</b>			
8	○被除数が0の場合や被除数と除数が同じ数値の場合の除法ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クッキーを4人で分けたときの1人分の数を求める場面で、クッキーが8個、4個のときを順に考え、1個もないときは何個になるかを考える。</li> <li>・ クッキーが1個もないときも<math>0 \div 4 = 0</math>と除法の式に表すことを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 0を含む除法の計算ができる。</li> <li>○ <math>a \div a = 1</math>, <math>0 \div a = 0</math>, <math>a \div 1 = a</math>などの式の意味を理解している。</li> </ul>
<b>まとめ 上p. 49~50 2時間</b>			
9	○学習内容を適用して問題を解決する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「力をつけるもんだい」に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習内容を適用して、問題を解決することができる。</li> </ul>
10	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「しあげ」に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な学習内容を身につけている。</li> </ul>

\* おぼえているかな? 上p.51 時数配当なし

一	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな?」に取り組む。	☒既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--------------------	------------------------

5. 大きい数の計算を考えよう [たし算とひき算の筆算] 上p.52~61, 125

[指導時期] 6月上旬~6月中旬 [指導時数] 9時間

- 【単元の目標】 ○3~4位数の加減法の筆算について理解し、それを適切に用いる能力を伸ばす。
- ☒・数の仕組みに着目したり既習の筆算の仕方を活用したりして、3~4位数の加減法の筆算の仕方を考えようとする。
- ☒・3~4位数の加減法の筆算の仕方を、2~3位数の場合を基に類推して、図や式などを用いて表現し、筆算の仕方を一般化してまとめることができる。
- ☒・3~4位数の加減計算を筆算の手順を基にして、計算が確実にできる。
- ☒・3~4位数の加減計算は、2位数などの基本的な計算を基にしてできていることを理解し、それらの筆算の仕方について理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) 3けたの数のたし算 上p.52~54 2時間			
1	[プロローグ] ・p.52のイラストを提示し、今までに学んできた加減計算について振り返るとともに、新たな課題となる3~4位数の加減計算についての興味・関心を高めるようにする。 ・所要時間は10分程度		
	○3位数+3位数の筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる。	・場面をとらえ、立式について考える。 ・既習内容を基に、 $365+472$ の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方(繰り上がりなし、一の位または十の位で繰り上がりあり)をまとめる。	☒3位数+3位数の筆算の仕方を、既習の筆算を基に考えようとしている。 ☒3位数の加法の筆算の仕方を、2位数の場合を基に類推し、図や式で説明している。
2		・ $347+178$ , $475+781$ の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方(一、十の位で繰り上がりあり、十の位で波及的繰り上がりあり、百の位で繰り上がりあり)をまとめる。	☒筆算形式による3位数の加法計算ができる。
(2) 3けたの数のひき算 上p.55~57 3時間			
3	○3位数-3位数の筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる。	・場面をとらえ、立式について考える。 ・既習内容を基に、 $315-194$ の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方(繰り下がりなし、一の位または十の位へ繰り下がりあり、一の位及び十の位へ繰り下がりあり)をまとめる。	☒3位数-3位数の筆算の仕方を、既習の筆算を基に考えようとしている。 ☒3位数の減法の筆算の仕方を、3位数の加法や2位数どうしの減法の筆算の仕方を基に類推し、図や式で説明している。
4		・ $402-175$ の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方(一の位へ波及的繰り下がりあり)をまとめる。	☒筆算形式による3位数の減法計算ができる。
5	○ $1000-3$ 位数の計算の仕方を理解し、その計算をすることができる。	・ $1000-265$ の計算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。	☒ $1000-3$ 位数の筆算について、生活の場面で用いようとしている。 ☒ $1000-3$ 位数の筆算ができる。
(3) 大きい数の筆算 上p.58~59 2時間			
6	○4位数を含む加減計算の仕方を理解し、その計算をす	・ $2483+7156$ , $7156-2483$ の計算の仕方を考える。	☒4位数±4位数の筆算の仕方を、3位数の場合を基に類推し、一般化してま

	ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>5102 \pm 4398</math> の計算の仕方を考える。</li> <li>・ 計算の仕方をまとめる。</li> </ul>	とめている。 <input type="checkbox"/> 桁に関係なく、加減法の筆算の仕組みを理解している。
7	○4位数±4位数の計算の仕方を確実に身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4位数±4位数などの型の計算練習をして、数が大きくなっても加減筆算の仕方は変わらないことをまとめる。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 4位数±4位数などの計算が確実にできる。
まとめ 上p. 60~61, 125 2時間			
8	○学習内容を適用して問題を解決する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「力をつけるもんだい」に取り組む。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 学習内容を適用して、問題を解決することができる。
9	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「しあげ」に取り組む。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 基本的な学習内容を身につけている。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【発展】 巻末p. 125の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組み、単元の学習内容を基にたし算やひき算についての理解を深める。</li> </ul>			

**\* 考える力をのばそう「重なりに目をつけて」 上p. 62~63 1時間**

1	○2つの量の重なる部分に着目して解く問題の解決を通して、問題解決の能力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題意をとらえる。</li> <li>・ テープ図の ( ) にあてはまる数字を書いて図を完成させる。</li> <li>・ 図を見て様々な立式をし、答えの求め方を考える。</li> <li>・ 求め方を発表し、検討する。</li> <li>・ 重なる部分を求める問題を解く。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 数量の関係をテープ図に表すと分かりやすいことに気づき、それを用いて問題を解決しようとしている。 <input type="checkbox"/> 2つの量の重なる部分に着目して、答えの求め方を説明している。
---	--	---	---

**6. 計算のしかたをくふうしよう [暗算] 上p. 64~66**

【指導時期】 6月下旬 【指導時数】 3時間

**【単元の目標】** ○2位数どうしの加法、減法の暗算について理解し、生活や学習で用いることができるようにする。

暗算のよさを認め、生活や学習に用いようとする。

数の柔軟な見方を基に、暗算による計算の仕方を工夫して考え、表現することができる。

被減数が100の減法の暗算、2位数どうしの加法、減法を暗算で計算することができる。

数の構成や加減法に関して成り立つ性質に着目して、暗算の仕方について理解する。

時	目標	学習活動	おもな評価規準
(1) 暗算 上p. 64~66 4時間			
1	○被減数が100の減法の暗算の仕方を理解し、その暗算をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自で <math>100 - 79</math> の計算を暗算でする方法をいろいろ考え、発表、検討する。</li> <li>・ 絵を見て、100円を出して品物を1個買った時のおつりを暗算でもとめる。</li> <li>・ 各時で <math>100 - 62</math> の計算を暗算でする方法をいろいろ考え、発表、検討する。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 被減数が100の減法の暗算の仕方を、100の構成を基に考えようとしている。 <input type="checkbox"/> 100の構成を基に、被減数が100の減法の仕方を工夫して考え、説明することができる。
2	○算数的活動を通して学習内容の理解を深め、100についての豊かな感覚を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 100づくり暗算かるたに取り組み、100の補数を考える。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。 <input type="checkbox"/> 100について豊かな感覚をもっている。
3	○2位数どうしの加法や減法の暗算の仕方を理解し、そ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各時で <math>48 + 29</math> の計算を暗算でする方法をいろいろ考え、発表、検討する。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 数の柔軟な見方を基に、暗算による2位数どうしの減法の計算の仕方を工



の暗算をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自で54-38の計算を暗算でする方法をいろいろ考え、発表、検討する。</li> <li>p. 64ページの絵を見て2つの品物を選び、値段の違いを暗算で計算する。</li> </ul>	夫して考え、説明することができる。 図2位数どうしの減法を暗算で計算することができる。
---------------	---	--

**\* かたちであそぼう「タングラム」 上p. 67 1時間**

1	○基本図形を組み合わせていろいろな形を作る活動を通して、図形に親しみ、その楽しさを味わう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>正方形を7分割した基本図形を使って、他の基本図形やいろいろな具体物の形を作る。</li> <li>*デジタルコンテンツがあります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図基本図形を工夫して組み合わせていろいろな形を作ろうとしている。</li> <li>図形の特徴に着目して、いろいろな図形を組み合わせた形の作り方を考え、表現している。</li> </ul>
---	---	---	---

**7. わり算を考えよう [あまりのあるわり算] 上p. 68~78**

〔指導時期〕 7月上旬~7月中旬      〔指導時数〕 10時間

- 【単元の目標】**
- わり切れない場合の除法について理解し、除法の意味について理解を深めるとともに、それをを用いることができるようにする。
  - 図・わり切れない場合の除法の意味や計算の仕方について、わり切れる場合の除法を基に、乗法との関連や具体物の操作などからとらえようとする。
  - 考・わり切れる場合とわり切れない場合の除法を統合してとらえ、除法の意味や計算の仕方を具体物や図、式を用いて表現することができる。
  - 図・わり切れない場合の除法の計算ができ、商や余りを求めることができる。
  - 図・余りの意味や余りと除数の大小関係を知り、除法について理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) あまりのあるわり算 上p. 68~74 6時間			
1	【プロローグ】 ・ p. 68のイラストを見て、既習の余りのないわり算の復習と、わり算について知っていることについての話し合いを通して、わり切れない場合があることに気づかせ、わり算への興味・関心を高める。		
2	○除数と商が1位数の除法で、わり切れない場合の計算の仕方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>14÷3の答えの見つけ方を考える</li> <li>それぞれの考えを発表し、答えを確認する。</li> <li>上記の計算結果を式に表すと14÷3=4余り2となることを知る。</li> <li>余りの意味を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図わり切れない場合の除法の計算の仕方を、既習の除法を基に考えようとしている。</li> <li>図わり切れない場合の除法の計算の仕方について、既習のわり切れる場合を基に考え、具体物や図、式などを用いて説明している。</li> </ul>
3	○余りと除数の関係を理解する。	・13÷4の計算について余りと除数の関係を調べる。	図余りは除数より小さくすることを理解している。
4	○等分除についてもわり切れない場合の除法が適用できることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>題意をとらえ、16÷3と立式し、答えの見つけ方を考える。</li> <li>それぞれの考えを発表し、答えを確認する。</li> <li>文章題に取り組む。</li> </ul>	図わり切れない場合の等分除の計算の仕方を、わり切れる場合の等分除を基に考え、具体物や図、式などを用いて説明している。
5	○わり切れない場合の除法計算について、答えの確かめ方を理解する。	・わり切れない場合を含む除法の答えの確かめ方を考える。	図わり切れない場合の除法の答えの確かめ方を理解している。
6	○わり切れない場合を含む、	・計算練習と答えの確かめをする。	図わり切れない場合の除法の計算がで

	除法の計算練習をする。		き、商や余りを求めることができる。
(2) あまりを考える問題 上p. 75～76 2時間			
7	○余りのとらえ方について理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題意をとらえ、<math>23 \div 4</math>と立式し、計算して答えを求める。</li> <li>・計算では5余り3だが、答えを5としてよいか話し合う。</li> <li>・答えは商+1になることをまとめる。</li> </ul>	☑問題場面に応じた、商や余りの処理の仕方を理解している。
8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・題意をとらえ、<math>30 \div 4</math>と立式し、計算して答えを求める。</li> <li>・計算では7余り2だが、商をそのまま答えとしてよいか、それとも商+1とすべきかを話し合う。</li> </ul>	
まとめ 上p. 77～78 2時間			
9	○学習内容を適用して問題を解決する。	・「力をつけるもんだい」に取り組む。	☑学習内容を適用して、問題を解決することができる。
10	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	☑基本的な学習内容を身につけている。

\* おぼえているかな? 上p. 79 時数配当なし

—	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな?」に取り組む。	☑既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--------------------	------------------------

8. 10000より大きい数を調べよう [大きい数のしくみ] 上p. 80～92, 126

【指導時期】 9月上旬～中旬 【指導時数】 10時間 (増減なし)

- 【単元の目標】 ○万の単位について知り、1億までの整数についての理解を深め、数を用いる能力を伸ばす。
- ☑ 十進位取り記数法の有用さに気づき、身の回りにある大きな数を書いたり読んだりして、生活や学習に用いようとする。
  - ☑ 千万の位までの数について、既習の数の仕組み（十進位取り記数法）から類推して考え、見方を深めることができる。
  - ☑ 千万の位までの数を表したり読んだりすることができ、十進位取り記数法の仕組みを基に、1つの数を10倍、100倍、**1000倍**、 $1/10$ にした大きさを表すことができる。
  - ☑ 万の単位について知り、十進位取り記数法の仕組みについて理解を深める。
    - ・等号、不等号の意味について理解する。

時	目標	学習活動	おもな評価規準
(1) 数の表し方 上p. 80～89 7時間			
1	[プロローグ]		
	○一万の位までの数の読み方、書き方、構成について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵を見て、紙の枚数を数える。</li> <li>・24153の数構成と命数法をまとめる。</li> <li>・紙の数を数字で表す。</li> <li>・用語「一万の位」を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☑10ごとに数えることで数えやすくなるなど十進位取り記数法のよさに気づいている。</li> <li>☑十万未満の数の読み方や書き方、数の構成を理解している。</li> </ul>
2	○十万、百万、千万の数の仕	・一万を10こ集めた数を「十万」といい、	☑一万～千万の数の仕組みについて、

	組みと千万の位までの読み方、書き方、構成について理解する。	「100000」と書くことを知る。 ・一万～千万の数の表し方の仕組みを考え、それぞれ10こ分の関係になっていることをまとめる。	既習の数の仕組みから類推して考えている。 図 千万の位までの数を読んだり書いたりすることができる。
3		・一万の位の左から順に「十万の位、百万の位、千万の位」ということを知る。 ・適用問題に取り組む。	
4	○数の相対的な大きさについて理解を深める。	・1000を23こ集めた数はいくつかを考える。 ・34000は1000を何こ集めた数かを考える。	図 23000などの数を、1000を単位とした相対的な大きさでとらえることができる。
5	○1万より大きい数の大小、順序についての理解を深め、1億を知る。	・用語「数直線」を知る。 ・数直線に表された数を読んだり、数を数直線に表したりする。 ・千万を10こ集めた数を「一億」といい、「100000000」と書くことを知る。	図 数直線上に表された整数を読んだり、数直線上に整数を表したりすることができる。 図 千万を10こ集めた数を「一億」といい、「100000000」と書くことを理解している。
6	○用語「等号」「不等号」を知り、数や式の相等関係や、大小関係の表し方を理解する。	・数の構成に基づく、大きい数の計算の仕方を考える。 ・□にあてはまる、「=、>、<」の記号を書く。 ・「等号」「不等号」の用語と意味についてまとめる。	図 数の相対的な大きさの見方を活用して、計算の仕方を工夫して考えている。 図 「=」や「>、<」が数や式の相等関係や大小関係を表すことを理解している。
7	○数の構成を多面的にとらえ、数の見方を豊かにする。	・16000について、いろいろな表し方を考え、言葉や式で表す。 ・式に表された、他者の考えを読み取り、表現する。	図 数の構成を基に、数の多様な見方について考え、表現している。
<b>(2) 10倍した数と10でわった数 上p. 90～91 2時間</b>			
8	○整数を10倍した数の表し方を理解している。	・20の10倍の数を考える。 ・もとの数と10倍した数の並び方を比べる。 ・25の10倍の数を考える。	図 十進位取り記数法の仕組みを基に、10倍した数はもとの数に0を1こつけた数になることを理解している。
9	○整数を100倍、 <b>1000倍</b> した数、10でわった数の表し方を理解している。	・25の10倍を10倍した数を考える。 ・ <b>25の10倍を10倍し、さらに10倍した数を考える</b> ・200を10でわった数を考える。 ・もとの数と10でわった数の並び方を考える。	図 十進位取り記数法の仕組みを基に、100倍、 <b>1000倍</b> した数や1/10の数はもとの数と数字の並び方は変わらないことを理解している。
<b>まとめ 上p. 92, 126 1時間</b>			
10	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	図 基本的な学習内容を身につけている。
	・【発展】巻末p. 126の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組む、単元の学習内容を基に一億までの数についての理解を深める。		

**\* おぼえているかな? 上p. 93 時数配当なし**

—	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな?」に取り組む。	図 既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--------------------	-------------------------

- 【単元の目標】**
- 2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、それを適切に用いる能力を伸ばす。
  - 関・2~3位数×1位数の筆算の仕方について、乗法九九などの基本的な計算を基にできることのよさに気づき、学習に生かそうとする。
  - 考・2~3位数×1位数の筆算について、数の構成や既習の乗法計算を基に考え、表現したりまとめたりすることができる。
  - 技・2~3位数×1位数の乗法の筆算の手順を基にして、計算が確実にできる。
  - 知・2~3位数×1位数の乗法の筆算の仕方について理解する。
    - ・乗法の結合法則を理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
<b>(1) 何十、何百のかけ算 上p.94~96 2時間</b>			
1	[プロローグ] ・九九表の空欄の求め方を考える活動を通して、被乗数の数範囲を拡張した乗法への興味・関心を高めるようにする。 ・所要時間は10分程度		
	○何十、何百に1位数をかける乗法計算の仕方について理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20×3の計算の仕方を考える。</li> <li>・その式を立てたわけを説明する。</li> <li>・かけられる数が10倍になると、答えも10倍になっていることをまとめる。</li> </ul>	関何十、何百×1位数の計算の仕方を、数の相対的な大きさや、既習の乗法九九の計算を基にして考えようとしている。
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・200×3の計算の仕方を考える。</li> <li>・かけられる数が100倍になると答えも100倍になることをまとめる。</li> </ul>	
<b>(2) 2けたの数に1けたの数をかける計算 上p.97~102 5時間</b>			
3	○2位数×1位数（部分積がみな1桁）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面をとらえ、立式について考える。</li> <li>・23×3の計算の仕方を、アレイ図や模擬貨幣を使ったり数操作をしたりして考え、答えを求める。</li> </ul>	関2位数×1位数の筆算の仕方を、既習の乗法九九などを基に、具体物や図、式を用いて考え、説明している。 関2位数×1位数の筆算形式の書き方や手順を理解している。
4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・23×3の筆算の仕方をまとめる。</li> <li>・適用問題に取り組む。</li> </ul>	
5	○2位数×1位数（一の位の数との部分積が2桁）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1辺16cmの正方形の周長を求める式を考え、その計算を筆算でする仕方を考える。</li> </ul>	関2位数×1位数（一の位の数との部分積が2桁）の筆算ができる。
6	○2位数×1位数（十の位の数との部分積が2桁、及び部分積がみな2桁）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・42×3, 58×3の筆算の仕方を考える。</li> <li>・筆算の仕方をまとめる。</li> </ul>	関2位数×1位数（十の位の数との部分積が2桁、及び部分積がみな2桁）の筆算ができる。
7	○2位数×1位数（部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・29×4, 76×4の筆算の仕方を考える。</li> </ul>	関2位数×1位数（部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり）の筆算ができる。
<b>(3) 3けたの数に1けたの数をかける計算 上p.103~106 4時間</b>			
8	○3位数×1位数（部分積がみな1桁）の筆算の仕方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面をとらえて立式し、312×3の計算の仕方を考える。</li> </ul>	関3位数×1位数の筆算の仕方を、2位数×1位数の筆算を基にして考えよう

	て理解し、その計算ができる。	・筆算の仕方をまとめる。	としている。
9	○3位数×1位数（一、十の位の数との部分積が2桁）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。	・386×2の筆算の仕方を考える。	☑3位数×1位数（一、十の位の数との部分積が2桁）の筆算ができる。
10	○3位数×1位数（部分積がみな2桁、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。	・937×4の筆算の仕方を考える。	☑3位数×1位数（部分積がみな2桁、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり）の筆算ができる。
11	○3つの数の乗法が1つの式に表せることを知り、乗法の結合法則について理解する。	・場面をとらえ、代金の求め方について考え、検討する。 ・場面を3口の乗法の式で表す。 ・3口の乗法の結合法則をまとめる。	☑乗法の結合法則を理解している。
<b>(4) 倍の計算 上p.107~108 2時間</b>			
12	○ある量の何倍かにあたる数を求めるときに、かけ算を用いることを理解する。	・140cmの3倍の長さを求めるのにはどんな計算をすればよいか考える。	☑数量の関係を、テープ図などを活用して工夫して考え、表現している。 ☑ある量の何倍かにあたる数を求めるときには乗法を使うことを理解している。
13	○ある数が基にする大きさの何倍かを求める場合にも除法が用いられることを理解する。	・36mが9mの何倍かを求めるのにはどんな計算をすればよいか考える。 ・何倍かを求めるには除法を使えばよいことをまとめる。	☑数量の関係を、テープ図を用いて工夫して考え、表現している。 ☑ある数が基にする大きさの何倍かを求めるには除法を用いることを理解している。
<b>まとめ 上p.109~111, 127 2時間</b>			
14	○学習内容を適用して問題を解決する。	・「力をつけるもんだい」に取り組む。	☑学習内容を適用して、問題を解決することができる。
15	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	☑基本的な学習内容を身につけている。
・【発展】巻末p.127の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組み、単元の学習内容を基に2~3位数×1位数のかけ算についての理解を深める。			

## 10. 大きい数のわり算を考えよう [大きい数のわり算] 上p.112~113

【指導時期】 10月中旬

【指導時数】 1時間

- 【単元の目標】**
- 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を考え、計算することができるようにする。
  - ☑ 簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方を、既習の除法計算や単位の考えを基に考えようとする。
  - ☑ 簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方について、図や式などを用いて考え、表現することができる。
  - ☑ 簡単な場合の2位数÷1位数の計算ができる。
  - ☑ 簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方を理解し、除数と商が1位数の除法の計算の意味の理解を確実にする。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1)	大きい数のわり算 p.112~113	1時間	
1	○ $60 \div 3$ , $69 \div 3$ などの計算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>60 \div 3</math>の計算の仕方を、60を10の9こ分ととらえて既習の計算を使って考える。</li> <li>・<math>69 \div 3</math>の計算の仕方を、69を60と9に分けて考える。</li> </ul>	㊦ $60 \div 3$ , $69 \div 3$ などの計算の仕方を、図や式を用いて、被除数の数の構成に着目して考え、説明している。

**\* どんな計算になるのかな？ 上p.114~115 1時間**

1	○加減乗除法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文を読み、それぞれどんな式を立てればよいかを考えて解決する。</li> <li>・絵を見て作問し、解決する。</li> </ul>	㊦既習内容を活用して、どんな式で解決すればよいかを考えようとしている。 ㊦適切な立式をして、問題を解決することができる。
---	---	---	---

**\* おぼえているかな？ 上p.116 時数配当なし**

—	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな？」に取り組む。	㊦既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--------------------	------------------------

**11. はしたの大きさの表し方を考えよう [小数] 下p.2~19**

〔指導時期〕 10月下旬

〔指導時数〕 12時間

**【単元の目標】**

- 小数の意味や表し方について理解し、小数の加減計算ができるようにする。
- ㊦ 小数を用いると整数で表せない端数部分の大きさを表せるよさに気づき、小数を生活や学習に用いようとする。
- ㊦ 小数は整数の十進位取り記数法を拡張していることをとらえ、小数の仕組みや構成、加減計算の仕方を考え、表現することができる。
- ㊦ 端数部分の大きさを小数を使って表したり、 $1/10$ の位までの小数の加減計算をしたりすることができる。
- ㊦ 小数が用いられる場合や小数の仕組みについて知り、小数の意味や、 $1/10$ の位までの小数の加減計算の意味や計算の仕方について理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1)	はしたの大きさの表し方 下p.2~7	4時間	
1	<b>〔プロローグ〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・p.2の写真を提示し、身の回りにある小数表示のものを話題として取り上げ、自由な話し合いなどをしながら、小数についての興味・関心を高めるようにする。</li> <li>・所要時間は10分程度</li> </ul>		
	○整数で表せない端数部分の大きさを表すのに小数が用いられることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水を1Lのますではかったときの1Lに満たないはしたのかさの表し方を考える。</li> <li>・1Lを10等分した1こ分のかさ「0.1L」ということを知る。</li> <li>・はしたのかさはその3こ分で0.3Lで、合わせて1.3Lになることを知る。</li> </ul>	㊦身の回りにある小数に関心を持ち、小数が用いられる場合について考えようとしている。 ㊦物差しを目盛りなどの既習と関連づけて、1を10等分して1Lに満たない端数部分の体積の表し方を考え、説明している。
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を振り返りながら小数を使ってはしたの大きさを表す。</li> <li>・用語「小数」「小数点」「整数」を知る。</li> </ul>	㊦体積について端数部分の大きさを小数を用いて表すことができる。 ㊦用語「小数」「小数点」「整数」を知

			る。
3	○長さ (cm) の場合も小数を用いて表すことができ、小数を用いると単名数で表すことができることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8cm7mmのテープの長さをcm単位で表すことを考える。</li> <li>・長さや重さの量について、小数を使った単名数での表し方を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☑長さについて小数で表すことができる。</li> <li>☑小数を用いると、2つの単位で表していた大きさを1つの単位で表せることを理解している。</li> </ul>
4	○数直線に表された小数を読んだり、数直線に小数を表したりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数直線に表された小数を読んだり、数直線に小数を表したりする。</li> <li>・小数の相対的な大きさについて考える。</li> </ul>	☑整数の数直線と関連づけて、数直線上の小数の読み方を考え、説明している。
<b>(2) 小数のしくみ 下p. 8~9 2時間</b>			
5	○用語「小数第一位」を知り、小数の位取りの仕組みや数の構成を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・147.2の構成について考える。</li> <li>・用語「小数第一位」を知る。</li> <li>・位取り板と数カードを使って、147.2の構成をとらえる。</li> </ul>	☑小数の各位の数字は、それぞれ100, 10, 1, 0.1などの単位の個数を示していることを理解している。
6	○小数の大小関係について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数直線を使って、小数の大小を考える。</li> <li>・小数の大小を比較する時には、整数の場合と同じように、位の数字に着目すればよいことをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☑数直線や構成を基に、小数の大小を考え、表現している。</li> <li>☑小数の大小関係を理解している。</li> </ul>
<b>(3) 小数のたし算とひき算 下p. 10~12 3時間</b>			
7	○小数第一位どうしの小数の加法とその逆の減法の計算の仕方を理解し、それらの計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面をとらえ、立式について考える。</li> <li>・<math>0.5+0.3</math>や<math>0.4+0.7</math>の計算の仕方を、0.1を単位として考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☑小数の加減計算の仕方を、小数を0.1の何こ分とみることで既習の整数の計算に帰着して考え、説明したりまとめたりしている。</li> <li>☑小数第一位どうしの加法とその逆の減法の計算ができる。</li> </ul>
8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面をとらえ、立式について考える。</li> <li>・前時の学習を使って、<math>0.8-0.3</math>や<math>1.4-0.6</math>の計算の仕方を考える。</li> </ul>	
9	○小数第一位までの小数の加減法の筆算の仕方を理解し、それらの計算をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>2.5+1.8</math>の筆算の仕方を考える。</li> <li>・小数第一位までの小数の加法の筆算の仕方をまとめる。</li> <li>・<math>4.3-1.8</math>の筆算の仕方を考える。</li> <li>・<math>1.2+2.8</math>, <math>4.2-3.5</math>, <math>5-1.4</math>の筆算の仕方を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☑小数の仕組みや整数の筆算を基に、小数の加減法の筆算の仕方を考え、説明したりまとめたりしている。</li> <li>☑小数第一位までの小数の加減法の筆算ができる。</li> </ul>
<b>(4) 小数のいろいろな表し方 下p. 13~17 1時間</b>			
10	○小数についても、いろいろな見方や表し方ができることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2.8を数直線に表し、いろいろな見方や表し方を考える。</li> <li>・他者の考えを読み取り、図や式や数直線で表す。</li> <li>・2.8は数の構成や、相対的な大きさを基にするといろいろな表し方ができることをまとめる。</li> </ul>	☑小数の仕組みを基に、数直線や式を用いて、2.8の多様な見方について考え、表現している。
<b>まとめ 下p. 18~19 2時間</b>			
11	○学習内容を適用して問題を解決する。	・「力をつけるもんだい」に取り組む。	☑学習内容を適用して、問題を解決することができる。
12	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	☑基本的な学習内容を身につけている。

\*考える力をのばそう「全体と部分に目をつけて」 下p. 20～21 1時間

1	○減法逆の減法などの問題を、図や□を使って解決することを通して、問題解決の能力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題意をとらえる。</li> <li>・テープ図や数直線図の空いているところにあてはまる数を書き、答えの求め方を考える。</li> <li>・求め方を発表し、検討する。</li> <li>・加法逆の減法の問題を解く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■既習を活用して、どんな式で解決すればよいかを考えようとしている。</li> <li>■適切な立式をして、問題を解決することができる。</li> </ul>
---	--	--	---

12. 重さを数で表そう [重さのたんいとはかり方] 下p. 22～32, 125

[指導時期] 11月上旬～11月中旬 [指導時数] 9時間 (+1時間)

- 【単元の目標】
- 重さの測定などの活動を通して、重さについて単位の意味と測定の原理を理解し、重さの測定ができるようにするとともに、重さについて量の感覚を見につけられるようにする。
  - 身の回りにあるものの重さに関心をもち、量感を基に見当をつけて測定しようとする。
  - 長さやかさの学習を基に、数値化することのよさや普遍単位の必要性を認め、重さの表し方を考え、表現することができる。
  - 重さについて、およその見当をつけ、適切な計器を選んで測定することができる。
  - 重さの単位やそれらの関係、はかりの目盛りの読み方や使い方、**単位のしくみを理解するとともに**、重さについての豊かな感覚をもっている。

時	目標	学習活動	おもな評価規準
(1) 重さのくらべ方 下p. 22～25 2時間			
1	<p>〔プロローグ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・p. 22の写真を提示し、物の大きさと重さ、重さの保存性、つり合い（重い方に傾くことなど）について話し合いながら、重さへの興味・関心を高める。</li> <li>・所要時間は10分程度</li> </ul> <p>○重さについて、単位の必要性を認め、重さを表す単位「グラム (g)」を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな文房具などの重さの比べ方を考える。</li> <li>・どちらがどれだけ重いかを調べる方法を考える。</li> <li>・積み木や一円玉など、適当な任意単位を使って比べ、表にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■いろいろなものの重さに関心をもち、重さの比べ方を考えようとしている。</li> <li>■重さの比較の仕方を、長さやかさの学習を基に、単位を決めて数値で表せばよいことを考え、説明している。</li> </ul>
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時でまとめた結果を基に、何がどれだけ重いかを発表する。</li> <li>・重さの単位「グラム (g)」を知る。</li> <li>・1円玉と自作天びんを使って、いろいろなものの重さをはかる。</li> </ul>	
(2) はかりの使い方 下p. 26～31 6時間			
3	○重さを測定する計器としてはかりがあることを知り、目盛りの読み方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重さとはかりの針の動き方の関係をとらえる。</li> <li>・はかりを使う際の留意事項をまとめる。</li> <li>・秤量1kgのはかりの目盛りの読み方を調べて、目盛りを読む。</li> <li>*デジタルコンテンツがあります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■数直線の読み方を基に、目盛りの読み方を考え、説明している。</li> <li>■秤量1kgのはかりの目盛りの読み方を理解している。</li> </ul>
4	○重さを表す単位「キログラム (kg)」, 1kg=1000gの関係を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重さの単位「キログラム (kg)」, 1kg=1000gの関係を理解する。</li> <li>・秤量2kgのはかりの目盛りを読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■秤量, 2kgのはかりの目盛りを読むことができる。</li> <li>■1kg=1000gの単位関係を理解している。</li> </ul>



5	○重さの量感を身につけ、はかりを用いて重さを正しく測定することができる。	・身の回りのものの重さを見当をつけてから測定する活動に取り組む。	☑重さをはかる前におよその見当をつけ、量感を身につけようとしている。 ☑測定する対象や目的に応じて、適切な計器を選択し、重さを測定することができる。
6	○正味、風袋、全体の重さの関係を知り、重さの加法性や測定の仕方について工夫について理解する。	・荷物の重さと箱の重さから、全体の重さを求める。 ・いろいろなものを使って、1kgをつくる活動に取り組む。 ・「算数のおはなし」を読み、体重計の乗り方によって重さは変わらないことを知る。	☑正味、風袋、全体の重さの関係に着目して、未知の量の重さの求めることができる。 ☑1kgの量感を身につけている。 ☑「トン」の意味を理解している。
7	○重い物の重さを表す単位「トン(t)」、 $1t=1000kg$ の関係を理解する。	・重さの単位「トン(t)」、 $1t=1000kg$ の関係を理解する。 ・6000kg, 3000kg, 2000kgをtを使って表す。	☑「トン」の意味を理解している。
8	○長さ、重さ、体積などのそれぞれの量の単位の関係を知り、単位についての理解を深める。	・既習の単位を振り返り、接頭語「キロ(k)」「(ミリ)」に着目する。 ・接頭語キロ(k)が1000倍を意味していることや、1mLのように接頭語ミリ(m)がつく単位で表される量を1000倍するとミリ(m)がとれて1Lとなることをとらえる。 ・単位の関係を活用した単位換算に取り組む	☑長さ、重さ、かさについて、それぞれの量の単位の関係を理解している。
まとめ 下p. 32, 125 1時間			
9	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	☑基本的な学習内容を身につけている。
・【発展】巻末p. 125の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組む、単元の学習内容を基に見方や考え方を広げる。			

\* おぼえているかな? 上p. 33 時数配当なし

—	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな?」に取り組む。	☑既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--------------------	------------------------

13. まるい形を調べよう [円と球] 下p. 34~45

〔指導時期〕 11月下旬 〔指導時数〕 8時間

- 【単元の目標】 ○円や球についての観察や構成などの活動を通して、円や球を構成する要素に着目し、円や球について理解できるようにする。
- ☑関・円や球に関心を持ち、身の回りから円や球を見つけ、それらが使われる場面について考えようとする。
- ☑考・円は中心から等距離にある点の集まりであることを見出し、円は半径の長さによって決まることについて考え、表現することができる。
- ☑技・コンパスを用いて円をかいたり、等しい長さを測り取ったり移したりすることができる。
- ☑知・円や球の中心、半径、直径について知り、円や球について理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) 円 下p. 34~41 5時間			
1	〔プロローグ〕 ・ p. 34のイラストを提示し、玉入れゲームにおける並び方について話し合いをしながら、並び位置によってかごからの距離が違うことに気づかせる。 ・ 所要時間は10分程度		
	○中心、半径の用語を知り、円の意味や性質について理解する。	・ かごからの距離が同じになる並び方を考え、並び方を線で表す。 ・ かごからの距離が同じになるように並ぶとき、人数が増えればきれいなまろい形になることをとらえる。	○ 一点から等距離になることを意識して、並んだ様子について考えようとしている。 ○ 中心から等距離になるように並ぶと円の形になることを見出し、説明している。
2		・ p. 133の付録を使って、いろいろな大きさの円をかく。 ・ まろい形を「円」ということ、及び「中心」「半径」の意味を知る。 ・ 1つの円に半径をたくさんひいて、半径は無数にあることや、どれも同じ長さであることを確認する。 ・ 身の回りから、円の形をしたものを探す。	○ 円、中心、半径の意味を理解している。
3	○直径の意味や直径と半径の関係を理解する。	・ 切り抜いた円の中心の見つけ方を考える。 ・ 「直径」の意味を知る。 ・ 直径の長さは半径の長さの2倍であることをまとめる。 ・ 円周上の2点を結ぶ直線のうち、最長なのが直径であることを確認する。 *デジタルコンテンツがあります。	○ 円を2つに折ると折り目の線が中心を通ることを基にして、円の中心の見つけ方を説明している。 ○ 直径の意味や、直径が半径の2倍になっていることを理解している。
4	○コンパスを使って、円をかくことができる。	・ 円をかくにはコンパスを使うと便利であることを知る。 ・ コンパスの使い方に注意して、指定された半径の円をかく。 ・ コンパスを使って、模様づくりに取り組む。 *デジタルコンテンツがあります。	○ コンパスを使って、指定された半径の円をかくことができる。
5	○コンパスには等しい長さを測り取る機能があることを理解する。	・ 直線と折れ線の長さを比較する方法を考える。 ・ コンパスは等しい長さを測り取るのに使えることをとらえ、長さの比較に用いる。 ・ p. 41の絵を使って、指定された大きさの円をかいて宝の場所を探す活動に取り組む。	○ コンパスで等しい長さを測り取ったり、同じ長さに区切ったりすることができる。
(2) 球 上p. 42~43 1時間			
6	○球について理解する。	・ ボールなどの具体物を真上や真横から観察する。 ・ 「球」や球の「中心」、「半径」、「直径」について知る。 ・ 球の形をしたものの直径の長さをはかる。 ・ 「算数のおはなし」を読んで、「直径」「半径」の漢字の意味を知り、用語の意味の理解を深める。	○ 身の回りの球の形をしたものの直径の長さをはかろうとしている。 ○ どこから見ても円になる形を「球」ということや、球のどこを切っても切り口が円になることを理解している。
まとめ 上p. 44~45 2時間			
7	○学習内容を適用して問題を	・ 「力をつけるもんだい」に取り組む。	○学習内容を適用して、問題を解決す

	解決する。		ることができる。
8	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	☒基本的な学習内容を身につけている。

## 14. はしたの大きさの表し方を考えよう～分数を使って [分数] 下p. 46～58

〔指導時期〕 12月上旬～中旬 〔指導時数〕 11時間

- 【単元の目標】**
- 分数の意味や表し方，分数の加法及び減法の意味について理解する。
  - ☒ 分数を用いると，整数で表せない等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表せるよさに気づき，生活や学習に用いようとする。
  - ☒ 分数は都合に応じて単位量を $n$ 等分した1こ分を単位としていることをとらえ，分数の表し方や分数の加減計算の仕方を考え，表現することができる。
  - ☒ 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを分数を用いて表すことができる。
  - ☒ 分数が用いられる場合や分数の表し方について知り，分数の意味や分数の加法及び減法の意味について理解する。
  - ・ 端数部分を表す数として，小数と分数があることを知り， $1/10$ の位までの小数と分母が10の分数の関係について理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) 分けた大きさの表し方 下p. 46～51 4時間			
1	〔プロローグ〕 ・ p. 46のイラストを提示し，ピザ，サンドウィッチ，折り紙，テープを等分する場面を話題として取り上げ，2年での分数の学習を振り返り，等分したときの大きさの表し方などについての興味・関心を高めるようにする。 ・ 所要時間は10分程度		
	○1mを3等分した1こ分の大きさを分数で $1/3m$ と表すことを理解する。	・ 1mのテープを2等分した1こ分の長さを，1mの二分の一ということを確認する。 ・ 1mのテープを3等分した1こ分の長さの表し方を考える。 ・ 1mのテープを3等分した1こ分の長さを1mの「三分の一」といい，「 $1/3m$ 」と書くことを知る。 ・ $1/3m$ は，その3こ分で1mになる長さであることを確認する。	☒ 1mのテープを3等分した1こ分の長さは，小数では表せないことに気づき，分数の表し方を基に考えようとしている。 ☒ 1mを3等分した1こ分の長さを1mの「三分の一」といい，「 $1/3m$ 」と書くことを理解している。
2	○分数の大きさは，単位分数の何こ分で表すことを理解する。	・ 1mのテープを3等分した2こ分の長さの表し方を考える。 ・ その長さを1mの「三分の二」といい，「 $2/3m$ 」と書くことを知る。	☒ $2/3m$ は，1mを3等分した2こ分の長さであることを理解している。
3	○「分数」「分母」「分子」の用語の意味を知り，液量についても，端数部分の大きさを分数で表せることを理解する。	・ 1Lを5等分した2こ分のかさの表し方を考える。 ・ 1Lを4等分した1こ分，6等分した4こ分のかさの表し方を考える。 ・ 「分数」「分母」「分子」の意味を知る。	☒ 1Lを等分し，それを何こか集めた大きさを，分数を用いて表すことができる。 ☒ 分数，分母，分子の意味を理解している。
4	○算数的活動を通して，等分することや，単位分数の何こ分で大きさを表すことの理解を深める。	・ [やってみよう] 分数ものさしを作って，いろいろなものの長さをはかる活動に取り組む。	☒ 学習内容を適切に活用して，活動に取り組もうとしている。
(2) 分数の大きさの表し方 下p. 52～55 4時間			
5	○数直線に表された分数を読む	・ $1/5m$ の2こ分，3こ分，4こ分の長さは何m	☒ 数直線に表された分数の大きさを読

	み取り，分数の大きさの表し方や大小について理解する。	か考える。 ・ $5/5m$ は $1m$ と同じ大きさであることを確認する。 ・ $4/5m$ と $3/5m$ の長さを比べる。	み取ることができる。 ☑ $5/5$ は $1$ と等しい大きさであることを理解している。
6	○単位分数の何こ分という表し方を基に，単位量を超える大きさも分数で表せることを理解する。	・ $1/5m$ の6こ分，7こ分，…の長さは何mか考える。 ・ $10/5m$ は $2m$ と同じ大きさであることを確認する。 ・ $7/5m$ と $9/5m$ の長さを比べる。	☑整数や小数と同じように，単位の何こ分として分数をとらえられることを考え，説明している。 ☑単位量を超える大きさも分数で表せることを理解している。
7	○ $3/4m$ と，元の長さの $3/4$ の違いについて理解する。	・図を見て，色を塗った部分の長さが $3/4m$ なのはどちらかについて考える。 ・ $1m$ を何等分しているかに着目し，図の色を塗った部分の長さを分数で表す。 ・ $3/4m$ とは，もとの長さ $1m$ の $3/4$ の長さであることを確認する。	☑もとの長さに着目し， $3/4m$ と元の長さの $3/4$ の違いをとらえ，説明している。
8	○分母が10の分数と $1/10$ の位までの小数の関係について理解する。	・ $1/10$ を単位とした数直線を基に分数の大きさや，分数と小数の関係について考え， $1/10=0.1$ であることを理解する。 ・小数第一位を「 $1/10$ の位」ということを知る。	☑数直線上に表された $1/10$ を単位とした分数について，その大きさや小数との関係を理解している。
<b>(3) 分数のたし算とひき算 下p. 51~52 2時間</b>			
9	○分数の加法及び減法の計算の仕方について理解し，それらの計算ができる。	・ $3/10$ と $2/10$ でたし算ができるか考える。 ・小数に置き換えてもできることを確かめ， $1/10$ の何こ分で考えればよいことをまとめる。	☑単位分数の何こ分で考えると，整数と同じように分数の加減計算ができることを式や図を用いて考え，説明したりまとめたりしている。 ☑分数の加減計算の仕方を理解している。
10		・ $4/5$ と $1/5$ でひき算ができるか考える。 ・前時の学習を生かして， $1/5$ の何こ分で考えれば整数と同じように計算できることをまとめる。	
<b>まとめ 下p. 58 1時間</b>			
11	○学習内容の定着を確認し，理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	☑基本的な学習内容を身につけている。

**\* おぼえているかな？ 下p. 59 時数配当なし**

—	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな？」に取り組む。	☑既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--------------------	------------------------

- 【単元の目標】**
- 未知の数量を□を用いて表し、関係や場面を式や図に表したり、式を読み取って場面に表したりすることができるとともに、□にあてはまる数の調べ方を理解する。
  - ㊦ 未知の数量を□を用いて表すことで、文脈の通りに式や図に表せるよさに気づき、問題の解決に用いようとする。
  - ㊧ 式は数量の関係や場面を簡潔に表すものとして、未知の数量を□を用いて式に表したり、図に表すことと関連づけたりして、数量の関係を的確にとらえることができる。
  - ㊨ 未知の数量を□を用いて表すことで、問題の場面を式や図に表したり、式を読み取って場面に表したりすることができる。
  - ㊩ 未知の数量を□を用いて表すと文脈通りに式や図に表せることや、□にあてはまる数の調べ方を理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) □を使った式 下p. 60~65 3時間			
1	<p>[プロローグ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ p. 60のコマ絵を提示し、各場面を式に表すことを通して、これまでの学習を振り返りながら式は場面を表していることとおさえ、式に対する興味・関心を高めるようにする。</li> <li>・ 所要時間は10分程度</li> </ul>		
	○未知数があっても□を用いると、文脈の通りに式に表せることや、その□にあてはまる数の調べ方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ お話にしたがって、未知数を□としてたし算の式に表す。</li> <li>・ 表した式について、テープ図を使ってお話場面と対応させ確認する。</li> <li>・ □にあてはまる数の求め方を、代入法や図を使って考える。</li> </ul>	<p>㊦未知数を□とすると、文脈の通りに場面を式に表せることのよさに気づいている。</p> <p>㊧未知数を□として式や図に表し、数量の関係を的確にとらえている。</p> <p>㊨未知数□にあてはまる数の調べ方を理解している。</p>
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ お話にしたがって、未知数を□としてひき算やかけ算の式に表す。</li> <li>・ 表した式について、テープ図や数直線を使ってお話場面と対応させ確認する。</li> <li>・ □にあてはまる数の求め方を、代入法や図を使って考える。</li> </ul>	
3	○□を用いた式を読み取り、具体的な場面に表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イラストを見て、場面をとらえる。</li> <li>・ それぞれの式で、□が何を表しているのかを考え、式にしたがってお話をつくる。</li> <li>・ できたお話の場面を、式と対応させて確認する。</li> </ul>	㊩未知数を□とした式を読み取って、具体的な場面に表すことができる。
まとめ 下p. 66 1時間			
4	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	㊩基本的な学習内容を身につけている。

\*おぼえているかな? 下p. 67 時数配当なし

—	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな?」に取り組む。	㊩既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--------------------	------------------------

- 【単元の目標】**
- 2位数や3位数に2位数をかける乗法の筆算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、それを適切に用いる能力を伸ばす。
  - 関・2~3位数×2位数の筆算の仕方について、2~3位数×1位数の計算を基にできることのよさに気づき、学習に生かそうとする。
  - 考・2~3位数×2位数の筆算について、数の構成や既習の乗法計算を基に考え、表現したりまとめたりすることができる。
  - 技・2~3位数×2位数の乗法の筆算の手順を基にして、計算が確実にできる。
    - ・簡単な2位数と1位数の乗法を暗算で計算することができる。
  - 知・2~3位数×2位数の乗法の筆算の仕方について理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) 何十をかける計算 下p. 68~70 2時間			
1	〔プロローグ〕 ・ p. 68のイラストを提示し、今までに学習したかけ算とまだ学習していないかけ算が、かけ算の表のどの部分に当たるかを考える活動を通して、乗数の数範囲を拡張した乗法への興味・関心を高めるようにする。 ・ 所要時間は10分程度		
	○1位数×何十の計算の仕方について理解し、その計算ができる。	・ 場面をとらえ、立式について考える。 ・ $5 \times 30$ の計算の仕方を考える。 ・ かける数が10倍になると、答えも10倍になることをまとめる。 ・ 1位数×何十の計算をする。	関1位数×何十の計算について、乗法の結合法則を用いて考えようとしている。 関1位数×何十の計算の仕方を理解している。
2	○2位数×何十の計算の仕方を理解し、その計算ができる。	・ $12 \times 30$ の計算の仕方を考える。 ・ 2位数×何十の計算をする。	関2位数×何十の計算の仕方を、2位数×1位数の計算を基にして式や図を用いて考え、説明している。 関2位数×何十の計算の仕方を理解している。
(2) 2けたの数をかける計算 下p. 71~75 6時間			
3	○2位数×2位数(部分積がみな2桁で繰り上がりなし、繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・ 場面をとらえ、立式について考える。 ・ $12 \times 23$ の計算の仕方を考える。	関既習の計算を基に、2位数×2位数の計算の仕方を式や図を用いて考え、説明している。
4		・ 筆算の仕方をまとめる。 ・ 適用問題に取り組む。	関2位数×2位数(部分積がみな2桁で繰り上がりなし、繰り上がりあり)の筆算ができる。
5	○2位数×2位数(部分積が2, 3桁で繰り上がりなし、あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・ $58 \times 46$ の筆算の仕方を考える。 ・ $36 \times 47$ , $23 \times 26$ , $24 \times 83$ などの計算を筆算でする。	関2位数×2位数(部分積が2, 3桁で繰り上がりなし、あり)の筆算ができる。
6	○2位数×2位数(乗数の末尾に0がある)の簡便な計算の仕方や、1位数×2位数の計算は乗法の交換法則を用いても計算できることを理解する。	・ $86 \times 30$ の簡便な筆算の方法を考える。 ・ $3 \times 46$ の筆算と $46 \times 3$ の筆算を比べてどちらが計算しやすいか考える。	関位の数字や桁数に着目して、計算のきまりを用いて簡単に計算する方法を考え、工夫している。 関1位数×2位数の計算を工夫して、2位数×1位数で計算できることを理解している。
7	○3位数×2位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・ $587 \times 34$ の筆算の仕方を、既習の筆算を基に考える。 ・ 桁数が増えても、既習の筆算と同じように	関3位数×2位数の筆算の仕方を、2位数×2位数や3位数×1位数などの筆算の仕方を基に類推して考え、説明している。

		計算できることをまとめる。	る。
8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>703 \times 25</math> など空位のある場合の筆算の仕方を考える。</li> <li>・ 乗法の筆算を練習する</li> </ul>	関3位数 $\times$ 2位数の筆算ができる。
<b>(3) 倍の問題 下p.76~77 2時間</b>			
9	○2つの数の倍関係を用いると、1あたりを基準量としなくても全体量を求められる場合があることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1袋4個入りで36円のドーナツを12個買うときの代金の求め方を考える。</li> <li>・ ドーナツ1個あたりの値段を考えたり、12個が4個の何倍かを考えて求めたりして、12個分の代金を求める。</li> </ul>	関1あたりの数量や2数の倍関係に着目して全体の代金の求め方を考え、説明している。
10	○基準量を求める場合には、□を用いて乗法の式に表し、除法を用いて□を求めればよいことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数量の関係を数直線を基に考え、□を用いて乗法の式に表す。</li> <li>・ □にあてはまる数を求めるには、除法を用いるか数をあてはめて調べることをおさえる。</li> </ul>	関数量の関係を数直線を基にとらえ、□を用いた式に表すことを考え、説明している。 関未知数を□として乗法の式に表し、□の値を求めることができる。
<b>(4) 暗算 下p.78 1時間</b>			
11	○簡単な場合の2位数 $\times$ 1位数の暗算の仕方を理解し、その暗算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>25 \times 4 = 100</math> をもとにして、<math>25 \times 8</math> の暗算の仕方を考える。</li> <li>・ <math>8 \times 25</math> の暗算の仕方を考える。</li> <li>・ <math>23 \times 3</math>, <math>230 \times 3</math>, <math>23 \times 30</math> の暗算の仕方を考える。</li> </ul>	関簡単な場合の2位数 $\times$ 1位数の暗算の仕方を理解している。
<b>まとめ 下p.79~81, 126 2時間</b>			
12	○学習内容を適用して問題を解決する。	・「力をつけるもんだい」に取り組む。	関学習内容を適用して、問題を解決することができる。
13	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	関基本的な学習内容を身につけている。
	・【発展】巻末p.126の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組む、単元の学習内容を基に乗数の桁数が大きくなる時のかけ算の筆算について理解を深める。		

## 17. 三角形のなかまを調べよう [三角形] 下p.82~92, 127

〔指導時期〕 2月下旬～3月上旬 〔指導時数〕 9時間

- 【単元の目標】**
- 三角形についての観察や構成などの活動を通して、三角形を構成する要素に着目し、二等辺三角形や正三角形、角について理解する。
  - 関・二等辺三角形や正三角形の敷き詰めによって模様的美しさや平面の広がり気づくとともに、身の回りから二等辺三角形や正三角形を見つけようとする。
  - 考・辺の長さに着目して三角形の特徴をとらえたり、角の大きさに着目して三角形の性質を見出したりして、表現することができる。
  - 技・定規とコンパスを用いて、二等辺三角形や正三角形を作図することができる。
  - 知・角について知り、二等辺三角形や正三角形の意味や性質について理解し、三角形についての豊かな感覚をもつ。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
<b>(1) 二等辺三角形と正三角形 下p.82~87 4時間</b>			
1	[プロローグ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ p.82の写真を提示し、身の回りの三角形に着目させるとともに、円周上に点を12個等間隔に打った関で、円周上の点や中心を直線で結んでいろいろな三角形をつくる活動に取り組み、三角形に対する興味・関心を高めるようにする。</li> <li>・ 所要時間は15分程度</li> </ul>	

	○辺の長さに着目して三角形を弁別することができ、二等辺三角形や正三角形の意味について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円周上の等間隔の点を結んで、いろいろな三角形をつくり、できた三角形を辺の長さに着目して分類する。</li> <li>・用語「二等辺三角形」「正三角形」を知り、弁別する。</li> </ul>	<p>○辺の長さに着目して、三角形の分類の仕方を考えている。</p> <p>○二等辺三角形や正三角形の意味を理解している。</p>
2	○二等辺三角形の作図の仕方を理解し、二等辺三角形を作図することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・底辺が3cmで2つの辺が4cmの二等辺三角形のかき方を考える。</li> <li>・コンパスと定規を用いて、上記の二等辺三角形を作図する。</li> <li>・二等辺三角形の作図練習をする。</li> </ul>	<p>○コンパスと定規を用いて、二等辺三角形を作図することができる。</p> <p>○底辺をかくと2点の位置が決まり、もう1つの点の位置を決めればよいことを理解している。</p>
3	○正三角形の作図の仕方を理解し、正三角形を作図することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3辺が4cmの正三角形のかき方を考える。</li> <li>・コンパスと定規を用いて、上記の正三角形を作図する。</li> <li>・正三角形の作図練習をする。</li> </ul>	<p>○二等辺三角形の作図方法を基にして、正三角形の作図法を考え、説明している。</p> <p>○コンパスと定規を用いて、正三角形を作図することができる。</p>
4	○円の性質を用いて二等辺三角形や正三角形をつくれることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートにかいた半径3cmの円の、中心と円周上の2点を結んでいろいろな三角形をかき、どれも二等辺三角形になることを確認する。</li> <li>・正三角形をかくには、円周上の2点をどのようにとればよいか考える。</li> <li>・円の性質を使うと、二等辺三角形や正三角形がかけられることをまとめる。</li> </ul>	<p>○既習の円の性質を基に、円の半径を利用してかいた三角形が二等辺三角形や正三角形になることを考え、説明している。</p> <p>○円を使って、二等辺三角形や正三角形を作図することができる。</p>
<b>(2) 三角形と角 下p. 88～91 4時間</b>			
5	○形としての角の意味を理解し、角の相等や大小を調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角定規で、直角のかどや一番とがっているかどを探す。</li> <li>・用語「角」および角の大きさの意味を知る。</li> </ul>	<p>○角の大きさを比べることができる。</p> <p>○角の意味を知り、角の大きさは辺の長さに関係ないことを理解している。</p>
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙に写し取った三角定規のかどを切り取って、角の大きさを比べる。</li> <li>・角の大きさは辺の長さに関係がないことをまとめる。</li> </ul>	
7	○二等辺三角形や正三角形の角の性質を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二等辺三角形と正三角形の、それぞれの3つの角の大きさを調べる。</li> <li>・二等辺三角形、正三角形の角の性質をまとめる。</li> <li>・三角定規2枚で三角形を構成しながら、二等辺三角形と正三角形の性質の理解を深める。</li> </ul>	<p>○二等辺三角形では2つの角が、正三角形では3つの角の大きさが等しいことを理解している。</p> <p>○二等辺三角形や正三角形を観察したり、折ったり重ねたりすることを通して、それらの性質を見出し、説明している。</p>
8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・[やってみよう] ※以下の活動から選択して取り組む。</li> <li>・巻末の折り込みにある、二等辺三角形と正三角形を並べて敷き詰める。</li> <li>・身の回りから、三角形の形をしたものを探す。</li> </ul>	<p>○学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。</p>
<b>まとめ 下p. 92, 127 1時間</b>			
9	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しあげ」に取り組む。</li> </ul>	<p>○基本的な学習内容を身につけている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・【発展】巻末p. 127の「おもしろ問題にチャレンジ！」に取り組む、単元の学習内容を基に、三角形についての見方や考え方を広げる。</li> </ul>			



\* おぼえているかな? 上p. 93 時数配当なし

一	○既習内容の理解を確認する。	・「おぼえているかな?」に取り組む。	☒既習内容について解決の仕方を理解している。
---	----------------	--------------------	------------------------

18. 見やすく整理して表そう [ぼうグラフと表] 下p. 94~105

[指導時期] 3月上旬~3月中旬 [指導時数] 9時間

- 【単元の目標】
- 身の回りにある事象について、目的に応じて観点を決め、資料を分類整理して、表や棒グラフを用いて分かりやすく表したり、読み取ったりすることができるようにする。
  - ☒・表やグラフに表すことよき気づき、目的に応じた観点を資料を分類整理したり、表や棒グラフに表そうとしたりする。
  - ☒・目的に応じた資料の分類整理の仕方や棒グラフや表の表し方を考え、分かりやすく表すことを工夫することができる。
  - ☒・資料を分類整理して表や棒グラフに表したり、表や棒グラフから資料の特徴や項目間の関係を読み取ったりすることができる。
  - ☒・棒グラフの読み方やかき方、表を用いた表し方について理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
(1) 整理のしかた 下p. 94~96 2時間			
1	〔プロローグ〕 ・p. 94のイラストを提示し、けがの種類や場所などについての自由な話し合いなどを通して、見やすく整理することへの興味・関心を高める。 ・所要時間は10分程度		
	○資料を分類整理する方法や整理結果を表にまとめる方法を理解する。	・p. 95の吹き出しをもとに、けがの種類別の人数を「正」の字を使って整理する。 ・結果を表に表す。 ・「合計」の意味を知る。	☒資料を分類整理して表に表すことよきに気づいている。 ☒資料を分類整理するとき、資料に落ちや重なりがないことを確認したり、誤りがおきにくいような方法を考えたりして、工夫している。
2		・p. 96の吹き出しをもとに、けがの場所と人数を表にまとめる。 ・「その他」の意味を知る。	
(2) ぼうグラフ 下p. 97~103 5時間			
3	○資料を棒グラフに表すと、数量の大小が分かりやすいことや、棒グラフの読み方を理解する。	・表と棒グラフや、2つの棒グラフを比べたりしながら、棒グラフを読み取る。 ・項目のとり方を変えたグラフを比べる。 ・用語「ぼうグラフ」とその特性を知る。	☒表と棒グラフを比較する活動を通して、棒グラフでは数量の大小がひと目で分かるよきに気づいている。 ☒棒グラフの読み方を理解している。
4	○数量が横軸に表されている棒グラフを読み取ることができる。	・数量が横軸に表された棒グラフを読む。 ・1目盛りの大きさや、項目の順序などについて考える。 ・棒グラフからいろいろな事項を読み取る。	☒横軸に数量をとった棒グラフでも数量や数量どうしの関係を読み取ることができる。
5	○棒グラフのかき方を理解し、棒グラフをかくことができる。	・けがの場所と人数を整理した表を見て、棒グラフに表す方法を考える。 ・項目のとり方、1目盛りの大きさなどの順に従ってグラフをかく。 *デジタルコンテンツがあります。	☒棒グラフの項目の並べ方や目盛りのつけ方を考え、分かりやすい表し方を工夫している。 ☒棒グラフのかき方を理解している。
6		・いろいろな資料を棒グラフに表す。	
7	○目盛りのつけ方が異なる3つの棒グラフを見比べて、棒グラフについての見方や	・目盛りのつけ方の異なる3つの棒グラフを見比べて、気づいたことを話し合う。 ・1目盛りを10人にした棒グラフを提示し、	☒目盛りのつけ方が異なる複数のグラフを比較する活動を通して、目的にあった適切な目盛りのつけ方につい

	考え方を広げる。	放課後と授業中ではけがをした人数はあまり変わらないという意見について、話し合う。 ・適用問題に取り組む。	て考え、説明している。
<b>(3) 表のくふう 下p.104 1時間</b>			
8	○一次元表を組み合わせた簡単な二次元表を読むことができる。	・3か月のけがの種類と人数をまとめた3つの一次元表を読む。 ・3つの表をまとめた二次元表に数を書き入れたあと、この表を読む。 ・二次元表の有用性を考える。	㊦一次元表と二次元表を比較する活動を通して、二次元表は種類別や3か月の間の合計が表され、項目が比べやすいなどのよさについて考え、説明している。 ㊦二次元表の意味を理解している。
<b>まとめ 下p.105 1時間</b>			
9	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	㊦基本的な学習内容を身につけている。

## そろばん 下p.106~108

【指導時期】 3月中旬 【指導時数】 3時間

- 【単元の目標】**
- そろばんによる数の表し方について知り、そろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができるようにする。
  - ㊦・そろばんに興味をもち、十進数の仕組みと関連づけてみようとする。
  - ㊦・そろばんの仕組みや十進位取り記数法の仕組みを生かして、数の入れ方、払い方を考えることができる。
  - ㊦・そろばんを使って簡単な加減計算をすることができる。
  - ㊦・そろばんを使った加減計算の仕方を理解する。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
<b>(1) そろばん 下p.106~108 3時間</b>			
1	○そろばんの各部分の名称を知り、そろばんにおかれた数の読み方や数の入れ方、払い方を理解し、加減の基本的な計算をすることができる。	・そろばんの各部分の名称を知り、そろばんに数を入れたり、払ったりする練習をする。 ・ $64+23$ , $70+48$ の計算をして、たし算の基本運珠の仕方を知る。 *デジタルコンテンツがあります。	㊦そろばんに興味をもち、用いようとしている。 ㊦そろばんを使った加減計算の仕方を考え、説明している。 ㊦そろばんですべて簡単な加減計算ができる。
2		・ $64-23$ , $70-48$ の計算をして、ひき算の基本運珠の仕方を知る。	
3		・ $1.2+0.4$ や $2.6-0.3$ , $4万+3万$ , $6万-2万$ などの計算に取り組み、小数や大きな数でもそろばんですべて計算できることを知る。 ・「算数のおはなし」を読み、そろばんの歴史について知り、そろばんへの興味・関心を高める。	

**\* かたちであそぼう「ペントミノ」 下p. 109 1時間**

1	○いくつかの図形を組み合わせて正方形や長方形を作る活動を通して、図形に親しみ、その楽しさを味わう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正方形を5こつなげてできた12種類の形からいくつかを選んで、正方形や長方形を作る。</li> <li>・*デジタルコンテンツがあります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■図形を工夫して組み合わせて正方形や長方形を作ろうとしている。</li> <li>■図形の特徴に着目して、正方形や長方形の作り方を考え、表現している。</li> </ul>
---	---	---	---

**\* 考える力をのばそう「間の数に目をつけて」 下p. 110~111 1時間**

1	○直線や円周上に等間隔に配置されたものの数と間の数との関係に着目して問題を解決することを通して、問題解決の能力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面をとらえ、解決の仕方を考える。</li> <li>・図を見て、間の数が木の数より1小さいことに気づき、答えを求める。</li> <li>・場面をとらえ、解決の仕方を考える。</li> <li>・図を見て立式し、間の数と木の数が等しいことに気づき、答えを求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■対応の考えを基に、直線上に等間隔に配置された場合について、間の数とももの数の関係を考えている。</li> <li>■直線上に配置された場合と円周上に配置された場合の違いを理解している。</li> </ul>
---	--	---	---

**\* 3年のふくしゅう 下p. 112~116 3時間**

1 3	○既習内容の理解を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題に取り組み、解決する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■既習内容について解決の仕方を理解している。</li> </ul>
--------	----------------	--	--